

第5回経営改善委員会 議事概要

1. 日 時 令和3年12月3日（金） 13時00分～15時00分

2. 場 所 WEB会議形式で開催
(※の委員はJR北海道本社会議室から参加)

3. 出席者

- (1) 委 員 片野坂真哉委員長、知野雅彦委員、友定聖二委員、
石井吉春委員(※)、檜森聖一委員(※)、上浦正樹委員
- (2) オブザーバー 国土交通省 石原大鉄道局審議官
鉄道・運輸機構 英浩道経営自立推進統括役
- (3) JR北海道 田浦芳孝会長、島田修社長、綿貫泰之副社長、
田畑正信常務、宮越宏幸常務、渡利千春常務、
萩原国彦取締役、島村昭志取締役

4. 議事概要

(1) 委員の交代と任期について

委員の交代と任期について説明を行った。

(2) JR北海道グループ経営改善に関する取り組みについて

11月12日に公表した「JR北海道グループ経営改善に関する取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 上期のKPIについて、コロナ禍において達成したものを評価する一方、未達成だったものがあることを確認した。
- コロナによる需要減からの回復が弱いことから、影響を最小限にとどめるためにコスト削減の工夫が必要。
- 一方、自己都合退職が続いていることから、賃金も含めた改善も必要。
- 思い切ったDX、IT化を図り、鉄道オペレーションの変革を進めるべき。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 固定費も含めたコスト削減をより一層深度化していかなければならない。
- ◆ 国や北海道の需要喚起策を活用するとともに、JR東日本とも連携し需要を取り込んでいく必要がある。

(3) カーボンニュートラルについて

J R北海道グループのカーボンニュートラルの取組の方向性について説明し、議論した。

委員より以下のご意見があった。

- カーボンニュートラルの取り組みをスタートしたことを評価する。
- ESGが各社とも経営戦略の根幹となっている。今回の内容はまだ骨格レベルである。
- 北海道は日本の中でも再生エネルギーに関する資源を有する。取り組みの具体化を進める必要がある。
- 若い世代は非常に関心が高い。意欲喚起にもなる。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 当社としてもしっかりと取り組んでいく。
- ◆ 他社の情報や世の中の最新情報を取り込みながら、遅れないように取り組んでいく。

(4) 社員意見の経営計画への反映について

社員の来年度経営計画の施策に対する意見・アイデアの募集に関し説明し、議論した。

委員より以下のご意見があった。

- とても良い企画である。
- 社員の意見を如何に取り入れ、社員のモチベーションを高めていくかが重要。
- 今回で終わらせず継続すべき。募集方法も検討してはどうか。
- これまで会社が踏み込めなかったテーマを思い切って議論の俎上に載せ、走り出すような取り組みが社員のやる気を引き出す

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 意見・アイデアの募集・活用する手法の多様化も含め、取り組み継続を検討していく。
- ◆ ひざ詰め対話や経営計画説明会の中で採用した意見を社員に紹介し、モチベーション向上につなげていく。

以上